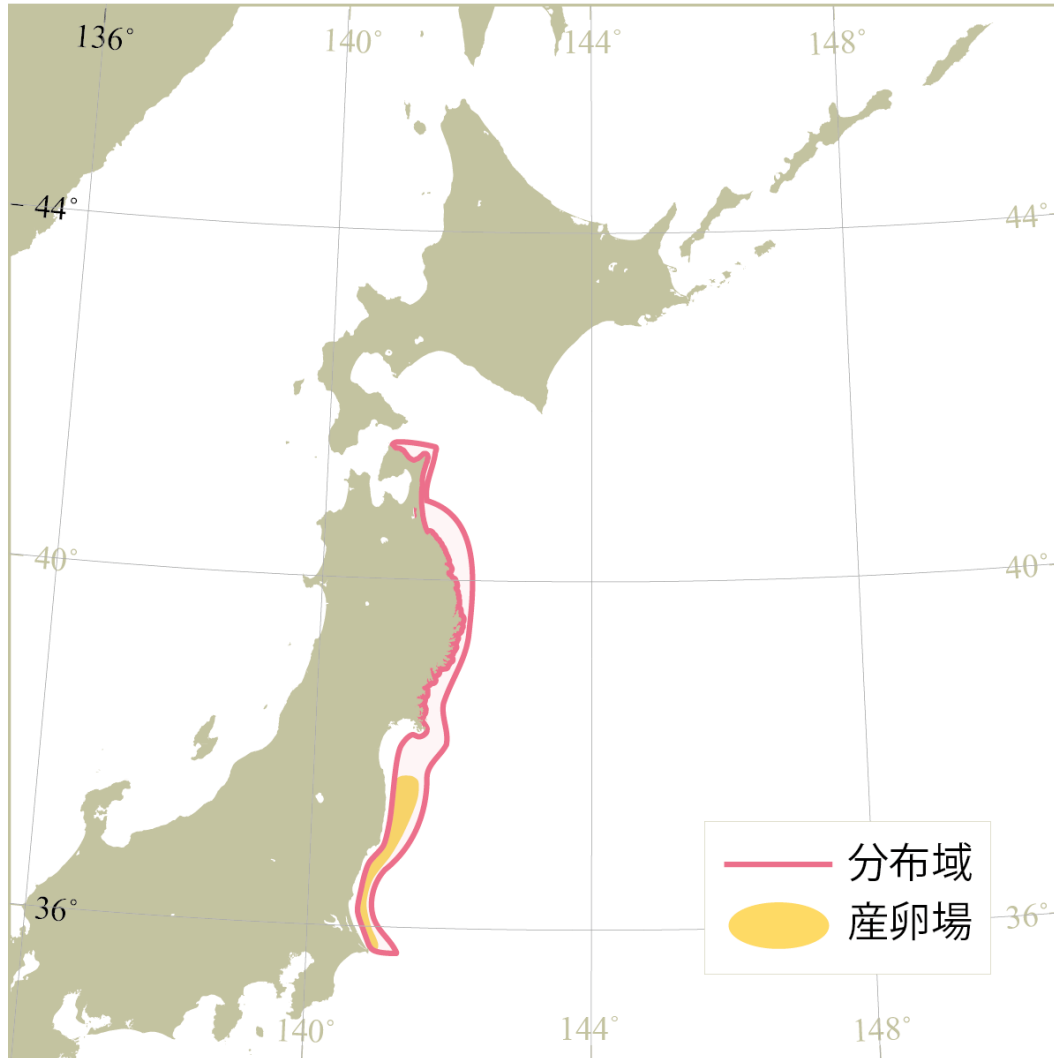




ヤナギムシガレイ太平洋北部 令和3年度資源評価結果

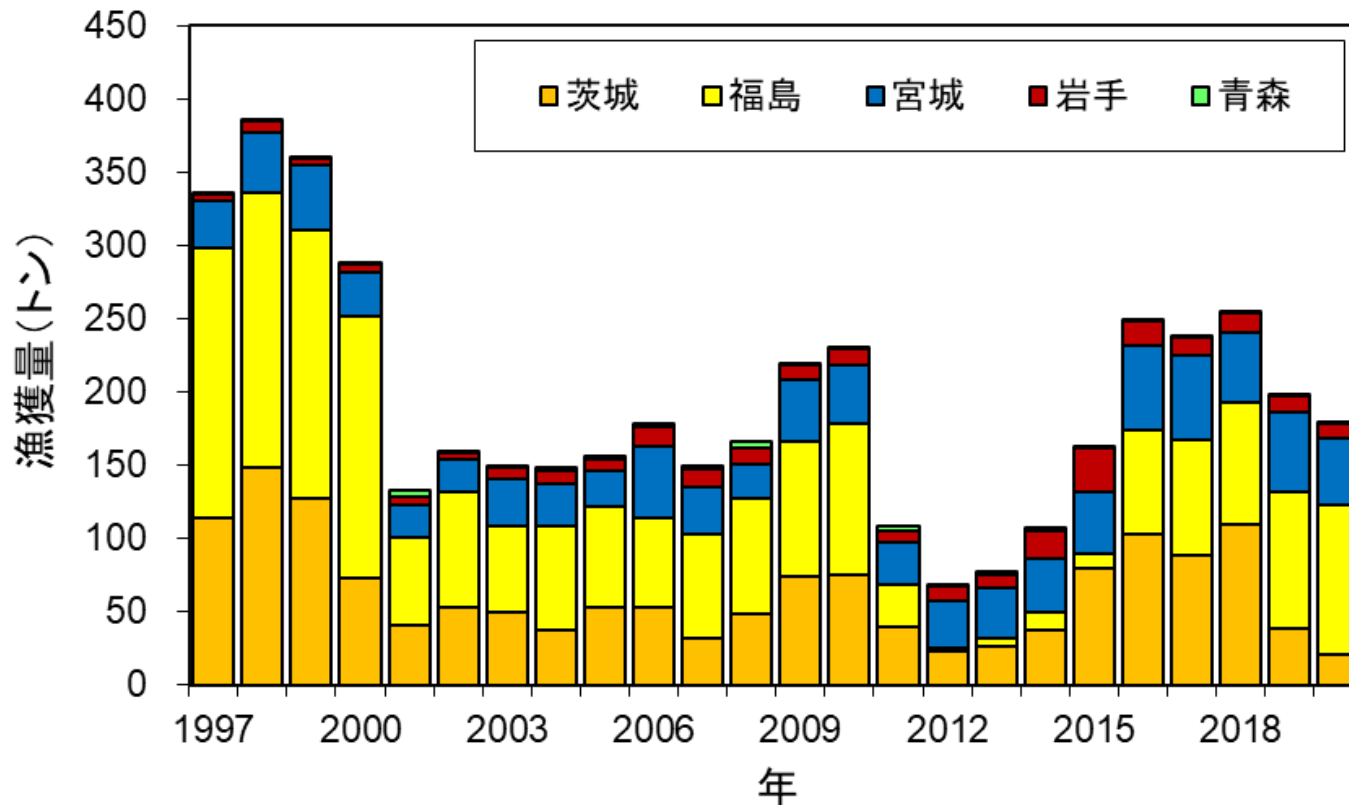
生物学的特性



生物学的特性

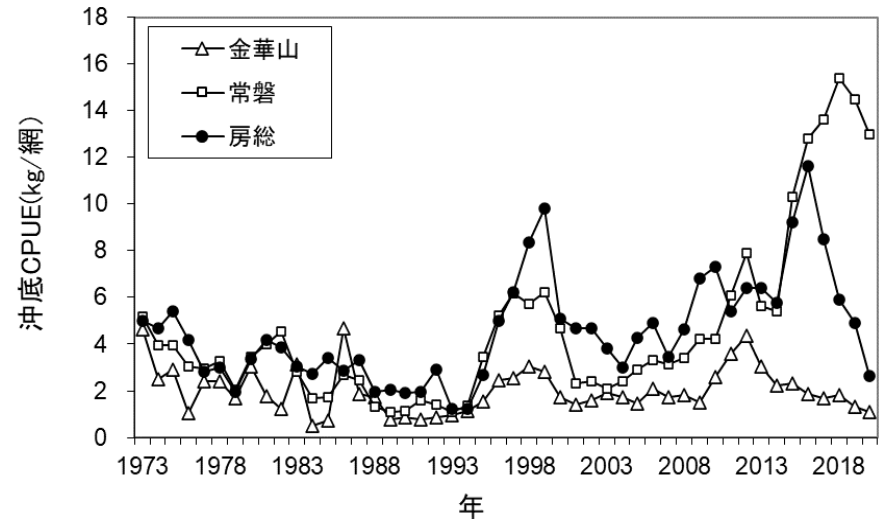
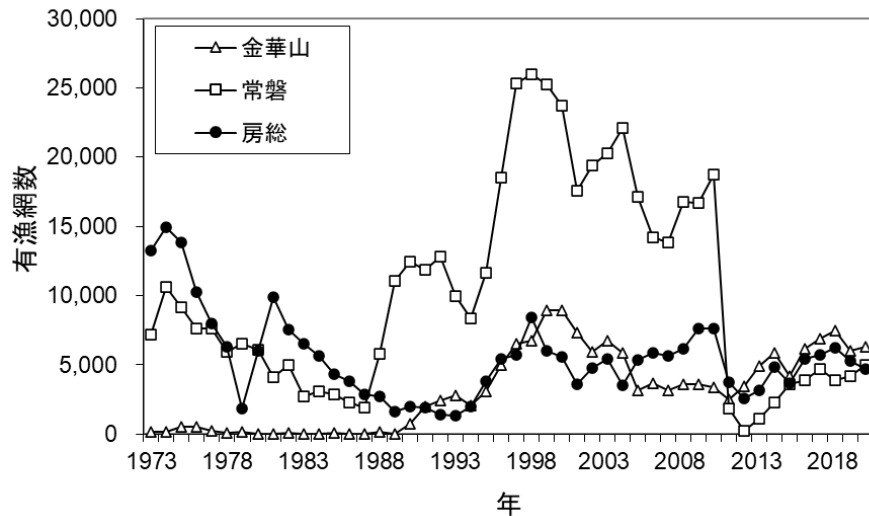
- 寿命: 雄6歳、雌20歳(ほとんどは10歳以下)
- 成熟開始年齢: 雄2歳(ほぼ100%)、雌2歳(一部)、3歳(100%)
- 産卵期・産卵場:
福島県沿岸では1~6月、盛期は1~3月、水深100m前後の沿岸各地
- 食性: 多毛類と甲殻類
- 捕食者: 不明

漁獲の動向①



- 主に沖合底びき網（沖底）で漁獲
- 主漁場は水深50～200m
- 2020年の漁獲量：179トン
（2019年：198トン）
- 福島県と茨城県の漁獲量が多い

漁獲の動向②

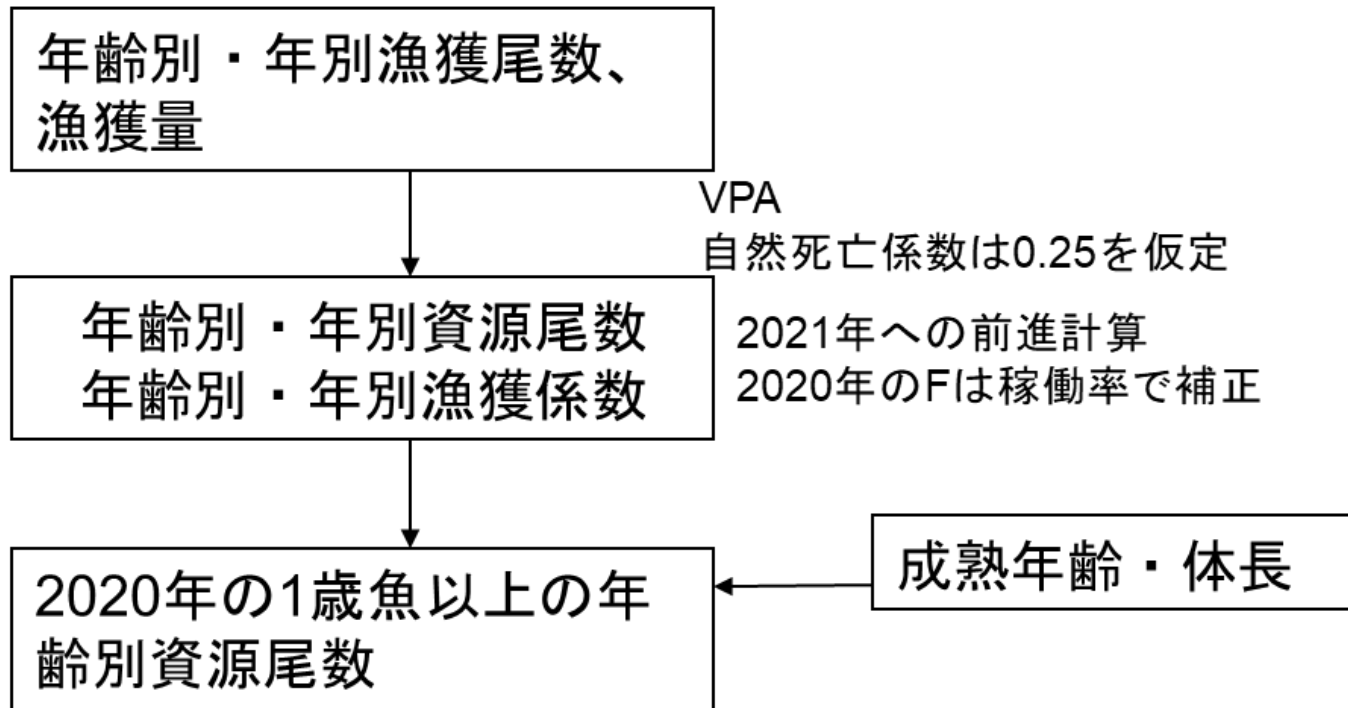


- 金華山～房総海区の沖底有漁網数は1990年代後半にかけて急増、主漁場である常磐海区では東日本大震災の影響で急減したが緩やかに回復
- 沖底のCPUEは2015年以降は海区ごとに変動が異なり、金華山海区は減少、房総海区では2016年に過去最高を記録した後に減少、常磐海区は2020年も非常に高い状態

※有漁網数：ヤナギムシガレイの漁獲があった操業の曳網回数

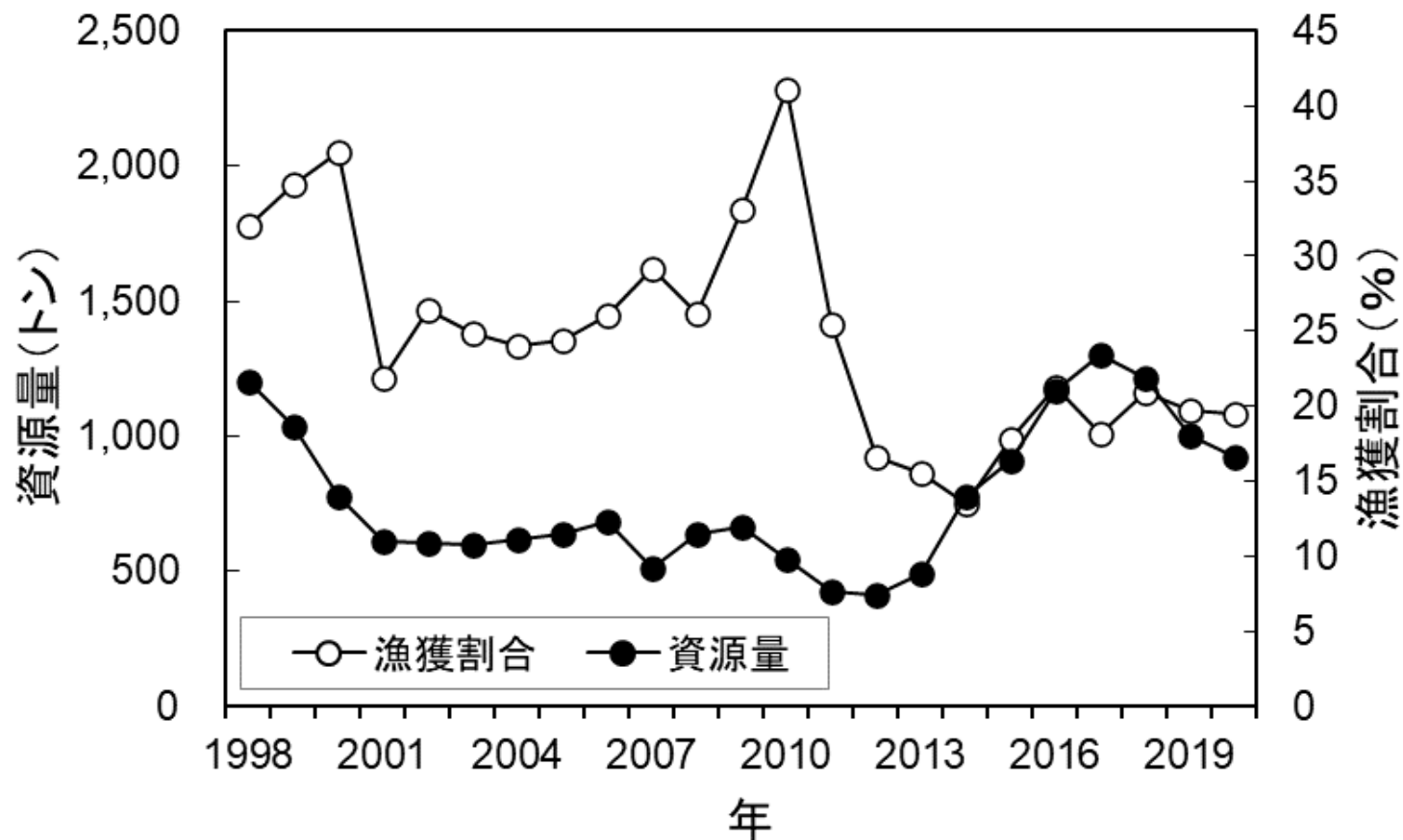
※CPUE：有漁操業の1網当たり漁獲量

資源評価の流れ



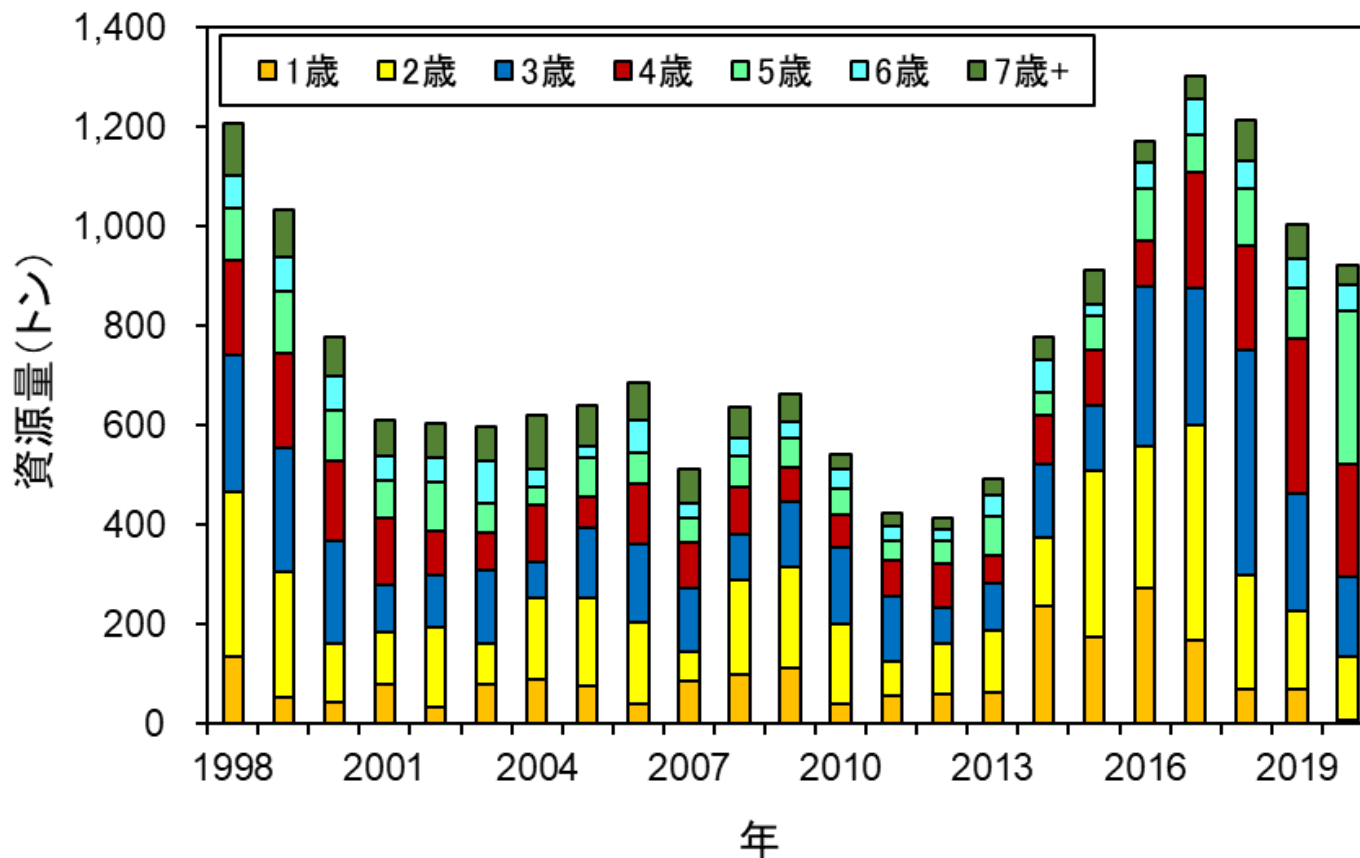
将来予測、管理に係る目標等基準値、資源の動向などについては、本年度中に開催される研究機関会議資料に記述します

資源の動向①



- 2020年の資源量は921トン、2018年以降減少傾向
- 2020年の漁獲割合は19%、2011年以降は震災の影響で減少

資源の動向②



- 2020年は2～5歳魚が多い資源構造
- 2014～2016年には例年と比較して多くの加入があったが、2017年以降は減少

資源評価のまとめ

- 資源量は2018年以降減少傾向だが、比較的高い値を維持
- 2020年は2～5歳魚が多い資源構造

管理に係る目標基準値、資源の動向等については、本年度中に開催される研究機関会議資料に記述します